

イスラームにおける社会的連帯（上）：信仰の絆

説明： 社会に連帯の基礎を築くこととは。

より ジャマールッディーン ザラボゾ

掲載日時 27 Aug 2012 - 編集日時 27 Aug 2012

カテゴリ： [記事](#) > [イスラームによる利益](#) > [社会への利益](#)



社会は人種、民族、宗教において異なる、一人一人の個人によって構成されています。今日の多元的社会について、そしてそういった社会において、いかにして社会的連帯を達成することができるのか、という話を良く耳にするようになりました。この問題に関するイスラームのアプローチは、独特なものです。その過程において、イスラームは可能な限りの強力な絆を築き上げます。

最も強い絆というものの説明に入る前に、イスラームは社会的不調和の最たる根幹、つまり人種差別と偏見を根絶するという事に言及しなければなりません。国家はいくらでも法を制定することが出来ますが、心の中にそういった病が根付いている限り、社会的連帯は決して実現しません。欧米でなされている移民についての議論が、この事実をよく反映しています。「外国人」に対する嫌悪感は、たとえ彼らが社会におけるれっきとした市民であったとしても、社会的連帯を常に妨げるのです。

イスラームはこうした病を一つの節によって払拭しました。神はこのように述べています。

“人びとよ、われらは一人の男と一人の女からあなたがたを創り、種族と部族に分けた。これはあなたがたを、互いに知り合うようにさせるためである。神の御許で最も貴い者は、あなたがたの中最も主を畏れる者である。本当に神は、全知にしてあらゆることに通曉なされる。”（クルアーン49：13）

それゆえ異なる人種や様々な民族は、ムスリムにとっての社会的連帯の達成において影響しないのです。しかしながら、イスラームが考慮に入れる区別というものも存在しています。それは信仰と宗教の違いです。それゆえ、ここにおける社会的連帯の議論は、宗教における多元的社会に的を絞ったものとなります。

信仰の絆

人々の中の最も強い絆について尋ねたとしたら、その答えの大半は血縁関係、民族的出自、国籍などに基いたものとなるはずですが。実際クルアーンでは、これらの種類の絆はその下にある基盤が弱い限り、大して強いものとはならないということを示しています。神はクルアーンにおいて、実の兄弟を殺害したカインとアベル、そしてヨセフを井戸に放り込ん

だヨセフの兄弟たちの例を示しています。彼らは血縁関係で結ばれていましたが、そういった関係よりも私欲を優先しました。こうしたことは現在、世界中で顕著に見られます。人々の間の絆は、彼らの現世における願望、目標、欲求に屈従するものです。多くの人は、現世の欲望ため、自らの身内や友人を売り渡すことすら厭いません。

これらすべては、一つのことを指し示します。人々の絆が世俗的願望に基づいたものであれば、たとえそれが血縁の絆であれ、世俗的願望がそれを要求する限り、そういった絆は破られるのです。それゆえ、そういった絆は人々が築くことのできる最も強い絆ではありません。人が勝ち取ることの出来る最も強い絆とは、イスラームと真の信仰に基づいた絆なのです。それは、神への信仰と、彼らによる神への愛情の結果として、人々の間に打ち立てられる絆です。このことは、神によってクルアーンの中で明確に指摘されています。

“ またかれは、かれら（信仰者）の心を一つに結ばれる。あなたがたとえ地上の一切のものを費やしても、あなたはかれらの心を一つに結ぶことは出来ない。だが神はかれらを結合させる。本当に神は偉力ならびなき英明な御方であられる。 ”（クルアーン8：63）

神はこのようにも述べられています。

“ あなたがたは神の絆に皆でしっかりと縋り、分裂してはならない。そしてあなたがたに対する神の恩恵を心に銘じなさい。初めあなたがたが（互いに）敵であった時かれはあなたがたの心を（愛情で）結び付け、その御恵みによりあなたがたは兄弟となったのである。あなたがたが火獄の穴の辺りにいたのを、かれがそこから救い出されたのである。このように神は、あなたがたのために印を明示される。きっとあなたがたは正しく導かれるであろう。 ”（クルアーン3：103）

クルアーンとスンナは、信仰の絆があらゆる絆の中でも最も強い絆であることを示しています。それは、世界中の人間を、唯一なる神への崇拜の確立という、一つの目的をもって連帯させるのです。この目的を達成させるため、ムスリムはお互いを思いやり、慈悲と愛情によって相互の扶助に務めます。

ムスリムが一つの普遍的 国際的な同胞愛を育ませることは、無数のクルアーンとハディースのテキストから論証されています¹。ここでは簡潔に、その中からの数例を取り上げてみます。

神はこう述べています。

“ 男の信仰者も女の信仰者も、互いに仲間である。かれらは正しいことをすすめ、邪悪を禁じる。また礼拝の務めを守り、定めの手をなし、神とその使徒に従う。これらの者に、神は慈悲を与える。本当に神は偉力ならびなく英明であられる。 ”（クルアーン9：71）

別の節では、このように述べられます。

“ 信仰者たちは兄弟である。 ”（クルアーン49：10）

神はこのようにも述べます。

“ ムハンマドは神の使徒である。かれと共にいる者は不信仰の者に対しては強く、挫けず、お互いの間では優しく親切である。 ”（クルアーン48：29）

預言者（神の慈悲と祝福あれ）はこう述べました。

“ 信仰者同士は一つの建物のようにあり、一つ一つがお互いを支え合うのである。 ”（サヒーフ ブハーリー、サヒーフ ムスリム）

別のハディースにはこのようにあります。

“ 信仰者による他者に対する愛情、慈悲、思いやりは身体にたとえることが出来る。身体の一部が痛むのであれば、その身体全体が不眠や熱で苦しむのだ。 ”（サヒーフ ムスリム）

イスラームにおける、この偉大な同胞愛は単に理論上だけのものではありません。それは実際に、実践的ガイダンスによって指示されているのです²。それには基本的な構成要素、特定の権利、義務がクルアーンとスンナによって明記されています。これらの権利と義務は、あらゆる時代と場所の全ムスリムに課されているのです。

Endnotes:

1

こうした同胞愛は、共通の信仰を基盤としていることを認識することが重要です。血縁関係は宗教の違いによって終止符が打たれるのです。神はノアとその息子に関して述べます。“ ノアはかれの主を呼んで申し上げた。「主よ、わたしの息子は（わが）家の一員です。あなたの約束は本当に真実で、あなたは裁決に最も優れた御方であられます。」かれは仰せられた。「ノアよ、かれは本当にあなたの家族ではない。かれの行いは正しくない。」（クルアーン11：45-46）したがって、非ムスリムはこうした同胞愛の枠組みには含まれません。しかし、彼らがイスラームを受容することによって、この人種 民族 国籍を枠を超越した同胞に加わることは大歓迎されます。さもないと、彼らは異なる宗教と信条によって、この同胞愛には含まれないことを自ら選択しているのです。後述されるように、ムスリムはそうした非ムスリムに対する義務をも負うのです。

2

イスラームにおいて私たちが、求める目標に到達することを助ける詳細な教えを見出すことが出来ることと同時に、それが極めて実践的かつ人間性に沿ったものであることは多大なる恩恵です。そうした教えの欠如こそ、キリスト教が直面している最大の問題の一つなのです。新約聖書において、社会的連帯に関する最大の教えは、イエスの「厳しい言葉」として知られるものです。それはこのようなものです。

「あなたがたも聞いているとおり、『目には目を、歯には歯を』と命じられている。しかし、わたしは言うておく。悪人に手向かってはならない。だれかがあなたの右の頬を打つなら、左の頬をも向けなさい。あなたを訴えて下着を取ろうとする者には、上着をも取らせなさい。だれかが、一ミリオン行くように強いるなら、一緒に二ミリオン行きなさい。求める者には与えなさい。あなたから借りようとする者に、背を向けてはならない。あなたがたも聞いているとおり、『隣人を愛し、敵を憎め』と命じられている。しかし、わたしは言うておく。敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい。あなたがたの天の父の子となるためである。父は悪人にも善人にも太陽を昇らせ、正しい者にも正しくない者にも雨を降らせてくださるからである。自分を愛してくれる人を愛したところで、あなたがたにどんな報いがあるのか。徴税人でも、同じことをしているではないか。自分の兄弟にだけ挨拶したところで、どんな優れたことをしたことになるのか。異邦人でさえ、同じことをしているではないか。だから、あなたがたの天の父が完全であられるように、あなたがたも完全な者となりなさい。」

(ムスリムはイエスの言葉が適切に保持されてはいなかったことを承知しており、イエスが本当にそう言ったのかどうかは定かではないことが言及されるべきでしょう。)キリスト教学者たち自身も困惑しています。こうした明らかに不可能、あるいは非実践的な教えがいかにして実践されるべきなのでしょう。いかにそれが混乱したものかを知るには、これに関する議論の例を一つ挙げるだけで十分でしょう。「(これらの言葉を解釈のため)ヨーアヒム イェレミヤスによって提示されたモデルは単純、典型的、かつ持続的な影響力を持つものです。このモデルによれば、件の説教は次の三つのうちのどれか一つに当てはめられます。@完全主義的な規定として、ラビ ユダヤ教の律法主義と完全に一致するもの。A実践不可能な理想的観念として、まず信者を絶望させ、それから神の慈悲を信じさせることへと導くもの。B「暫定的倫理」として、終末の待機期間の一時だけに求められる、現在では廃棄されたもの。イェレミヤスは独自に第四の説を挙げます。それは、件の説教は神の王国の初期の人生における暗示的表現であり、変節の経験の状況の可能性をあらかじめ仮定したものだということです。より複雑で、包括的な図式化は提示されましたが、主要な解釈者の大半はイェレミヤスによって提示された選択肢に関連して理解することが出来ます。」 Lisa Sowle Cahill, *Love Your Enemies: Discipleship, Pacifism, and Just War Theory* (Minneapolis, MN: Fortress Press, 1994), p. 27.

この記事のウェブアドレス：

<http://www.islamreligion.com/jp/articles/511>

Copyright © 2006-2011 www.IslamReligion.com. All rights reserved.